

# ellipse

[エリプス]

## TOPICS

東日本大震災で保護者を亡くした子どもたちを支援する活動  
「夢のつばさ♥プロジェクト」がスタート!

体験談「震災から学んだこと」

講演会「放射線と子ども～日常の疑問からちょっと深い話まで～」

稲葉 俊哉 教授 (広島大学原爆放射線医科学研究所 副所長)

楕円(ellipse)には焦点がふたつあります。男性中心の社会から、女性と男性がそれぞれに中心(焦点)となる社会を目指すという思いを込めて、誌名を「エリプス」と名づけました。



ワ・タ・シ

深津千鶴 FUKATSU, Chizu イラストレーター  
東京生まれ。1988年、お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業。在学中に、『週刊朝日』誌上にて「山藤章二の似顔絵塾」特待生となる。広告代理店勤務を経て、1990年より作家活動を開始。書籍装画、CDジャケットなど多く手がける一方、エッセイ執筆、壁画制作などの活動を展開している。



特定非営利活動法人  
お茶の水学術事業会

## REPORT

講師派遣事業のご報告  
桜蔭会静岡支部講演会「此岸のはての紫の上」

男女共同参画促進事業のご報告  
「文京区 女性のためのパソコン教室」

## INFORMATION

お茶の水女子大学イベント情報  
事務局よりお知らせ

東日本大震災で保護者を亡くした子どもたちを支援する活動

夢のつばさ♥プロジェクトがスタート!

設立の趣旨とご支援のお願い

「夢のつばさ♥プロジェクト」企画担当 室伏 きみ子

(お茶の水女子大学大学院教授、日本学術会議会員、NPO 法人お茶の水学術事業会理事、NPO 法人遺伝カウンセリング・ジャパン副理事長)

2011年3月11日に、三陸沖を震源地としたマグニチュード9.0の巨大地震が発生し、太平洋沿岸を中心に巨大な津波を誘発して、多くの方々の貴重な生命を奪いました。未曾有の大災害の犠牲者となられた方々に、深く哀悼の意を捧げます。そして、地震・津波の被害を受けた皆さまに、心からお見舞い申し上げます。

私たちは、被災された方々の心の痛みを少しでも少なくするために、また様々な課題を抱えた方々のために、お手伝いできることは何だろうかと考えてきました。そして、保護者を失った子どもたちが一緒に楽しい時を過ごす場を定期的に設けて、その成長を長く見守ってこうと決心しました。夏や冬の長期休みに宿泊型のキャンプを開催し、そこに集う子ども達がスポーツやレクリエーション、コンサートなどのさまざまな活動を共有し経験する中で、自らを育て、仲間を作り、そしてこの活動を未来に繋ぐ大人に成長して欲しいと願っています。

こうしたキャンプ活動のほかに、常時連絡や相談を受け付ける窓口を設け、医師、心理カウンセラー、遺伝カウンセラー、教師らによる相談業務や、進学や就職などの進路相談を行う

運営組織 (2011年9月16日現在)



ことも考えております。

今回の活動には、学生や企業ボランティア、NPO 法人、カウンセラー、医療関係者などが参加し、温かいお心をお寄せくださる様々な団体や個人の方々による支援の輪が広がりつつあります。私たちはこの活動を「夢のつばさ♥プロジェクト」と名付け、子どもたちの夢の実現のために、継続した活動を実施します。皆様の温かいご支援を心からお願い申し上げます。

※「夢のつばさ♥プロジェクト」のホームページ  
(<http://www.npo-ochanomizu.org/tsubasa/index.html>)  
も是非ご覧ください。

理事長より会員の皆さまへ

NPO 法人 お茶の水学術事業会理事長 平野 由紀子

お茶の水学術事業会の6月の総会で「夢のつばさ♥プロジェクト」の提案が、室伏理事からなされた時、まことに重要なことだと思いました。

未曾有の東日本大震災で保護者を亡くした、つらい体験をもつ子どもたち。

年二回の緑豊かな奥多摩での宿泊型のキャンプ。その期間、コンサート・スポーツ・工場見学など、楽しい経験を、学生をはじめボランティアの人たちと共にする事で、「自らを育て、仲間を育て、この活動を未来に繋ぐ大人に成長してほしい」。そのように願う、息の長い企画です。

総会ではこのプロジェクトを長期にわたり継続することの大切さ、そのためにも現在の事業会スタッフに過重な負担がかからないような仕組みを考えることが議論されました。

その結果、事業会の中の一つの部門として位置付けることになりました。また初年度には、起動に必要な資金として、100万円の予算をつけることも承認されました。

子どもの未来、子どもの教育に、深い関心を寄せる本事業会は、長期的にこれを実行してゆく所存です。

皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

## ★2011年8月9日～11日 プレキャンプを実施しました プレキャンプに参加して

文教育学部言語文化学科（フランス語専攻）竹内 早紀

3月11日の東日本大震災は、本当に凄まじいものでした。惨憺たる被害状況に、とても心が痛みました。自分にも何かできることはないのかと考えていた時、この「夢のつばさ♥プロジェクト」のお話をいただき、リーダーとして参加させていただくことになりました。

プロジェクトには、50名にも及ぶ学生たちがボランティアとして登録し、精力的に活動しました。しかし、プロジェクトが発足した当時は、不安なことばかりでした。学生のほとんどにとってキャンプは初めての経験であるうえ、子どもたちと接するのも初めてという状態だったため、手探りでプロジェクトを進めていきました。あるNPOが実施した福島の子どもたちのためのキャンプを見学に行ったり、何度も会議を重ねたりしながら、被災した子どもたちと共に楽しめる企画を練り上げました。時には意見が衝突することもありましたが、結果的に納得のゆくまで準備をし、当日に臨むことができました。

キャンプ当日を迎えてみると、それまでの不安を忘れるほど、ずっと笑顔で過ごすことができ、3日間があっという間に過ぎました。今回は、学生に対して子どもたちが少なく心配でしたが、楽しそうにはしゃぎまわる子どもたちと一緒に、学生も童心にかえって楽しむことができました。夏らしく、バーベキュー、スイカ割り、また夜には花火も行いました。特にスイカ割りは初めての体験だという子も多く、大変喜んでくれました。しかし、ただ楽しむだけではなく、準備から後片付けまで子どもたちも大人も一緒になって行うことで、人として大切なことも学べるように、心がけました。

また、今回のキャンプは様々な企業や団体にご協力いただきました。キャンプ二日目には、110mハードルの入江幸人選手がいらして下さり、プロの走りを見た子どもたちは目を輝かせました。徒競走が早くなる方法を教えていただいたり、リレーや水鉄砲で対決したりしました。子どもたちは、入江選手に勝とうと、懸命に体を動かし、とびきりの笑顔を見せてくれました。また、夜にはフラメンコギターの演奏グループである DON



▲入江選手との交流



◀植樹祭

ALMASが、演奏会を開いてくださいました。初めて聴く種類の音楽に子どもたちは心を動かされた様子でした。また全員で「翼をください」を合唱した時には、子どもたち同士はもちろん子どもと学生の間にも、強い絆を実感しました。

最終日に行われた植樹祭も印象的でした。子どもたちと一緒に、紅白の布で飾られたスコップで「あすなろ」の苗木を植え、これからともに成長しようと誓いました。

他にもたくさん企画を行いました。どの活動も、様々な方々のご支援のおかげで、この「夢のつばさ♥プロジェクト」でしか味わえない、貴重な体験となりました。子どもたちも初めての経験の連続に、終始わくわくした様子を見せてくれました。

プレキャンプとして行われた今回のキャンプでは、冬の第1回キャンプに向け、交通手段の問題や、子どもたちの精神的ケアなど、様々な課題が明らかになりました。しかし、3日間を通して子どもたちの笑顔をたくさん見ることができ、「また来るね!」と言ってもらうことができた今回のキャンプは、子どもたちにとっても学生にとっても、忘れられない夏の思い出となりました。子どもたちのためにと始めたキャンプでしたが、逆に私たちがとても成長させてもらったように思います。

課題はまだたくさんあるこの「夢のつばさ♥プロジェクト」ですが、自分自身も成長させてもらいながらも、子どもたちが夢に向かって羽ばたくお手伝いをして行きたいと思います。

### ご寄付のお願い

「夢のつばさ♥プロジェクト」では、キャンプ活動のほかに、常時連絡や相談を受け付ける場を設け、医師・心理カウンセラー・遺伝カウンセラーらによる相談業務を行ったり、いずれは進学や就職などの進路相談にも当たりたいと考えています。この度、相談業務と地域での活動について皆様からご支援を賜りたく、ご寄付のお願いを申し上げます。 個人1口：5千円 法人1口：10万円

なお、ご寄付いただけます際には、ご芳名、ご住所（連絡先）を下記までお知らせください。

〈連絡先〉事務担当 滝澤 公子 TEL & FAX : 03-5978-5362 Email : tsubasa@npo-ochanomizu.org

〈振込先〉三井住友銀行 大塚支店 (店番号 227) 普通 1284200 名称：特定非営利活動法人お茶の水学術事業会理事長 平野由紀子

※詳細は、HP をご覧ください。 <http://www.npo-ochanomizu.org/tsubasa/kifu.html>

### 第1回キャンプの予定

日時：2011年12月23日(金)～26日(月) 開催地：東京都青梅市「奥多摩園」

# 特別レポート 東日本大震災体験談 「震災から学んだこと」



松本 真奈美

昭和 39 年東京生まれ。昭和 62 年 お茶の水女子大学国文学科卒業、平成 6 年 東京大学大学院博士課程修了。  
平成 7 年 尚絅学院短期大学専任講師の職を得て宮城県に赴任。現在、尚絅学院大学教授。

卒業生から東日本大震災の体験談を伺う機会がありました。話して下さったのは宮城県仙台市にお住まいの松本真奈美さん。ご自身が 3 月 11 日以降の日々を過ごすうえで、16 年前に新聞やテレビを通して見た阪神大震災の様子がかなり参考になったことから、今回の震災体験とその中で学んだことを少しでも記憶が鮮明なうちに伝えておきたいと思われたそうです。



地震発生時の様子から、電気・水道・ガスといったライフラインが止まった中でのご家族 3 人（ご夫君と中 2 の娘さん）の生活、職場である尚絅学院大学の対応等について詳しく話してくださいました。大学では、震災直後に対策本部が設けられ、新年度の授業は 5 月の連休明けからと決められました。電話やメールの復旧を待ってまずは学生全員の安否確認をし、3 月 24 日、25 日には来られる人のみ参加するという形で卒業式を行いました。4 月に入ってからは、学生一人一人に電話をかけて、家や家族のことも含めた詳しい被害状況の聞き取り調査をするということもなさったそうです。



新聞等ではあまり伝えられていない当事者ならではのお話は、もし再び同じようなことが起こった場合には役立ちそうな内容がたくさんありました。そのいくつかをご紹介します。

## 地震発生当日の夕方から翌日にかけてしたこと

3 月 11 日に帰宅したのは午後 5 時ごろで、まだ明るかったので、家の中を少し片付けることにしました。散らばったガラスや食器の破片はガムテープでペタペタ貼り付けて取るのだと娘が教えてくれました。また、水道が止まってしまうと思いましたので、家じゅうのバケツや鍋などに水をためました。

午後 7 時頃には真っ暗になりました。このまま暗い中で何かしていても危ないだけだと思い寝ることにしましたが、その夜はかなり大きな地震が 5 分から 10 分おきにあったと記憶しています。そのたびに娘と食卓の下にもぐって、「大丈夫。さっき

より大きいのは来ないよ」と励まし合いました。

12 日になり、遠隔地にいる親族・知人などに連絡を取る必要があると思ったのですが、電話もメールも使えません。そこでハガキに、とにかく「家族も皆無事です」ということを短く書いて出しました。阪神大震災の時にもハガキがかなり役にたったそうですが、今回も 12 日の午後に投函したハガキが 14 日には先方に届いたとのことでした。

ラジオはつけっぱなしにしていたのですが、とりあえず生きていくために必要な身の回りの情報は自分たちで集めるしかないと思い、家族で街を歩いてお店の开店状況や行列の様子などを見ました。水道が止まっているなか、井戸を使っているお家に「どうぞ水をお使いください」と貼り紙がしてあるのを見て、宮城の方の親切さを改めて感じました。

## 日頃の備えについて

宮城県に住んで 16 年ほどになりますが、震度 5 強から 6 弱位の地震を既に 4 回ほど経験しておりました。

そういったこともあり、我が家では、本棚、食器棚、洋服ダンスなどの大きな家具はすべて、天井との間に「つっぱり棒」をしてありました。また、阪神大震災では電子レンジが枕元に飛んできたという話もありましたので、落ちてきそうな家具の足の部分に粘着質のシートを敷いていました。そのおかげで、家具はチェストのような本当に小さいものが倒れただけで済みました。

それからお風呂を使った後の浴槽のお湯は抜かないで、次にお風呂を沸かす時までそのままにしていました。これはトイレを流す時などに使用でき、実際に役にたちました。

震災の時にあって安心した物の第 1 位はマグライトです。手持ちサイズで立てて使うこともできるタイプのものを家族の人数分準備しておくとういと思います。それぞれがトイレに行く際などに使うことを考えると、やはり 1 本きりでは困ります。我が家には 50 センチぐらいの大きな物もあり、それも役立ちました。補充用の電池はいちいち探さなくてもよいように 1 箇所にまとめておきましょう。

15～16ℓくらいの水のポリタンクもお奨めです。バケツや洗面器やお鍋にも水をためることはできますが、持ち運びを考えると、やはりポリタンクがしっかりしていて女性にも運びやすいと思います。

また、よく言われているお皿にラップを敷いて使い、使用後そのラップをはがして処分するというやり方は、水がないときにお皿を洗わずにすみませしたので、本当に便利でした。

〈松本さんのお宅のライフラインの復旧状況〉

3月13日	午後になり新聞到着
3月15日	携帯電話が「圏外」でなくなる
3月16日	朝、電気と水道復旧。14時ごろ、PCメール復旧
3月30日	午後、都市ガス復旧

## 心身への影響

4月7日の23時32分にM7.1の余震があり、3月11日に倒れたものがまったく同じように倒れ、電気もガスも止まりました。“せっかく元通りになったのに、またか…”とかなりショックを受け、それがきっかけで体調を崩してしまいました。もともと貧血だったうえに、震災の後、栄養状態が悪くなっていたことも影響したのだと思います。具体的には何だか目がよく見えず、動悸・息切れがしました。身体がズーンと重い感じで、順序立ててものを考えることが難しくなりました。夜は8時ごろになると横になりたくなくなりました。

インターネットなどで調べ、これらは典型的な「うつ」の症状だということが分かりました。阪神大震災のときも1ヶ月ぐらいたって「うつ」になる人が沢山いたと聞いてはいたので、“ああ、こういうことなのかな”と思う反面、“ずっとこのままだったらどうしよう”と大変な不安に陥りました。いよいよどうしようもなくなったら病院に行くことにして、とりあえず自分なりに3つの対処法を考えました。

1つ目は好きな本を読むということ。一番お気に入りだったのは、宇野千代さんの『生きて行く私』という本でした。2つ目は、人に隠さないようにすること。「私は4月7日の余震以来、体調が悪いですからね。呆けていますから気をつけてくださいね」という感じで同僚などに話しました。これは話した相手から色々な情報やアドバイスをいただけるというメリットもありました。3つ目は、仕事を休まないようにはするけれども無理はしないということでした。

そうしているうちに2週間ほどで回復が始まりました。同僚のある教員に「別にうつだっていいじゃないか」と言われて、非常に心が楽になったのがきっかけでした。私の場合は軽く済んだということもあり、今ではこの経験をかなり前向きに受け止めています。まさか自分がうつになるとは思ってもみませんでした。(2011年6月11日第二回「お茶国生の軌跡—女性のための異業種・異文化交流研究会—」より)

協力：「お茶国生の軌跡」実行委員会

委員長：川鍋 暢子さん、腮尾 尚子さん

## お茶の水学術事業会事務局よりお知らせ

### ◆ 2011 年度定期総会

下記のとおり、お茶の水学術事業会定期総会を開催しました。

【日時】：2011年6月18日(土) 午前10時～12時

【会場】：お茶の水女子大学理学部3号館 ラウンジ

#### 【審議事項】

第1号議案：2010年度事業報告書(案)について

第2号議案：2010年度収支決算書(案)ならびに監査報告について

第3号議案：2011年度事業計画(案)について

第4号議案：2011年度収支予算(案)について

【議長】：平野 由紀子(お茶の水学術事業会理事長)

審議事項はすべて、全員一致で承認されました。また参加なさった会員から貴重なご意見をいただくことができました。今後ともよりよい活動ができますよう尽力してまいりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

2011年度の事業計画書は、HPにも掲載しておりますので、ご覧ください。(http://www.npo-ochanomizu.org/)

### ◆ 講演会共催のパートナー募集および講師のご紹介について

お茶の水学術事業会では講演会やセミナーを共催していただける団体を募集しております(一定の条件があります)。またご要望に応じて、講師をご紹介します。詳しくは事務局までお問合せください。

TEL & FAX : 03-5976-1478

E-mail : info@npo-ochanomizu.org





# お茶の水女子大学 イベント情報

2011年10月以降に開催される各種イベントのお知らせです。詳細は、各主催者にお問い合わせください。

期日	イベント・講座名	参加費	備考
2011年10月1日(土)～10月14日(金) ※8日(土)～10日(月)は休館日  10/17(月)から年度末までは、事前申込がある場合は日程調整の上、ご覧いただけます。	<b>歴史資料館企画展示</b> <b>「関東大震災とお茶の水女子大学本館 —校舎焼失からの復興—」</b>  本学の前身である東京女子高等師範学校は大正12年に発生した関東大震災によりお茶の水にあった校舎を焼失するという悲劇に見舞われました。その後、現在の大塚の地に校地を移し、今に至っています。本学に残る関東大震災に関わる資料や写真、復興事業の中心であった大学本館の見どころを紹介し、校舎焼失から復興までの軌跡をたどります。	無料	【開館時間】 10/1(土)、10/2(日)：9時～17時 10/3(月)～10/7(金)、10/11(火)～10/14(金)：12時30分～16時30分 【ギャラリートーク】10/13(木)14時～ 【集合場所】歴史資料館2(参加申込不要) 【主催】お茶の水女子大学歴史資料館 【会場】お茶の水女子大学歴史資料館(大学本館1F) 【詳細】歴史資料館のHPをご覧ください。 <a href="http://archives.cf.ocha.ac.jp/info_kikaku_2011.html">http://archives.cf.ocha.ac.jp/info_kikaku_2011.html</a> 【お問合せ】E-mail: shiry@cc.ocha.ac.jp
2011年10月15日(土) 13:00～17:00	<b>お茶の水女子大学・IEEE JC WIE 共催イベント</b> <b>「若手女性リーダーたちと語ろう」</b> ◆講演1「「みがかずば」の理念に基づく女性リーダーの育成」 鷹野 景子 氏 (お茶の水女子大学副学長) ◆講演2「文京区における女性リーダー育成と子育て支援～イクメン区長の経験から～」 成澤 廣修 氏 (文京区長) ◆講演3「女性リーダー発イノベーション「女性の感性からの発想」—情報通信技術を用いた音楽療法—最先端・次世代研究開発支援プログラム採択課題」 小杉 尚子 氏 (NTTコミュニケーション科学基礎研究所) ◆パネル・ディスカッション「ワークライフバランスが女性リーダーを育てる」	無料	【主催】IEEE Japan Council Women in Engineering Affinity Group、お茶の水女子大学、ICTMT 研究推進委員会 【後援】内閣府男女共同参画局、文京区 【会場】お茶の水女子大学共通講義棟2号館201室 【お申込み】下記HPよりお申し込みください。(定員200名、申込先着順) <a href="http://www.ieee-jp.org/japancouncil/affinitygroup/WIE/20111015/">http://www.ieee-jp.org/japancouncil/affinitygroup/WIE/20111015/</a> 【お問合せ】お茶の水女子大学リーダーシップ養成教育研究センター TEL: 03-5978-5520
2011年11月1日(火) 14:00～16:30	<b>公開講演会</b> <b>「共に生きる～本当に意味のある国際協力とは～」</b> 山本 敏晴 氏 (NPO 法人「宇宙船地球号」事務局長) テーマ: (1) 西アフリカ・シエラレオネで医療援助 (2) 中東・アフガニスタンで持続可能な開発 (3) 世界や社会に対して、私たちにできること	無料	【主催】お茶の水女子大学 グローバル協力センター 【会場】お茶の水女子大学 共通講義棟2号館201室 【お問合せ・お申込み先】 お茶の水女子大学 グローバル協力センター E-mail: info-cwed@cc.ocha.ac.jp 【詳細】大学HPのイベント情報をご覧ください。 <a href="http://www.ocha.ac.jp/information/20110826.html">http://www.ocha.ac.jp/information/20110826.html</a>
2011年11月5日(土) 13:00～16:30	<b>四女子大学共催イベント</b> <b>「第5回女子中高生のためのサイエンスフェスティバル 輝く理系の女性たち」</b> ◆特別講演「右の世界・左の世界—分子、結晶、そして巻貝の左右まで—」 黒田 玲子 氏 (東京大学大学院教授) ◆OGによるパネル・ディスカッション ◆女子中高生向けの実験体験コーナー(数学、情報、物理、化学、生物分野)	無料	【主催】お茶の水女子大学、津田塾大学、東京女子大学、日本女子大学(五十音順) 【会場】お茶の水女子大学 共通講義棟2号館201室特別講演、OG パネル・ディスカッション) 共通講義棟3号館実験室(学生による実験体験コーナー) 【お申込み】 申込専用 E-mail: sf2011-i@cc.ocha.ac.jp [氏名(ふりがな)] と [参加人数(参加者のうち女子中高生的人数)] を送信してください。 ※当日参加・途中参加も可能ですが、満席の場合は事前申込者を優先します。なお、一般の方も参加可能です。 【お問合せ】 お茶の水女子大学 男女共同参画推進係 Tel: 03-5978-5336
2011年10月17日(月)～11月30日(水)	<b>第16回 附属図書館企画展示</b> <b>「お茶大の中心で愛を読む ～LiSA セレクト♪ 秋の恋愛特集～」</b>	無料	【主催】お茶の水女子大学附属図書館 LiSA 有志 【会場】図書館1階キャリアカフェ横 【詳細】附属図書館のHPをご覧ください。 <a href="http://www.lib.ocha.ac.jp/tenji/tenji_top.html">http://www.lib.ocha.ac.jp/tenji/tenji_top.html</a> 【お問合せ】E-mail: library@cc.ocha.ac.jp
10月31日(月) 11月30日(水) 12:40～ 12月22日(木) 12:30～(予定)	<b>図書館ミニコンサート</b> 音楽表現(学) コースの学生によるピアノの本格的な生演奏をお楽しみいただけます。	無料	【会場】図書館1階ラウンジ 【詳細】附属図書館のHPをご覧ください。 <a href="http://www.lib.ocha.ac.jp/concert.html">http://www.lib.ocha.ac.jp/concert.html</a> 【お問合せ】 E-mail: library@cc.ocha.ac.jp ※お申込は不要です。

共催講演会のご案内

「制がん剤研究からアンチエイジングコスメの開発へ」

講師：室伏 きみ子 氏（お茶の水女子大学 理学部生物学科教授）  
2011年12月3日（土） 14:00～16:00（参加費 無料）

【主催】お茶の水地理学会 【共催】お茶の水学術事業会  
【場所】お茶の水女子大学 本館 306  
\*どなたでも ご参加いただくことができます。

【申し込み方法】葉書かFAXかE-mailで下記まで  
\*住所・氏名・電話番号・卒業生の方は卒業学科を記入  
\*保育ご希望の方は必ずお書き下さい  
〒112-8790 文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 文教育学部  
地理学教室  
FAX: 03-5978-5185 E-mail: chiriog@yahoo.co.jp  
【締め切り】2011年10月31日（消印有効）  
\*定員を超えた場合は抽選後、葉書で可否を連絡いたします。  
皆様のご参加をお待ちしております。

● 第62回 微音祭  
COLORFUL ～ What's your color? ～

2011年11月13日（土）14日（日）

毎年恒例のシンポジウム・豪華ゲストによるトークショーなど今年も  
たくさんの企画を用意して、お待ちしております。  
今年のテーマ COLORFUL ～ What's your color? ～にふさわしくそ  
れぞれの個性を表現!各参加団体とともに、多様な色・個性で溢れ  
た微音祭を目指して参りました。  
ぜひ、第62回微音祭にいらしてください♪

みどころ その1 毎年恒例のイベント!

毎年恒例のイベントも、今年ならではの見どころポイントが!  
ビンゴde チャリティーではビンゴカードの売り上げを全額、  
東日本大震災の義援金へ寄付します。  
例えば、スタンプラリーでは、  
時間限定のスペシャルスタンプが登場!

大人気企画の水コンや参加団体コンテストでは、例年以上に自分  
のCOLORを出していくことが審査での重要なポイントに?!  
ご注目ください!

みどころ その2 個性あふれる参加団体!

毎年たくさんの団体が参加していますが、今年の参加団体は例年よ  
りかなり増!!まだ入学して6カ月ほどの1年生による学科での出店  
や強い絆に結ばれた3・4年生の団体、各サークル、微音祭のため  
に結成された団体などさまざまな団体が集います!

その他にもみどころがたくさん!

詳しくは <http://kiin2011.web.fc2.com/> で!

皆様のご来場を実行委員はじめ、一同心よりお待ちしております!  
お問い合わせは E-mail: kifc2011@gmail.com まで

第74回教育実際指導研究会のご案内

研究テーマ 交響して学ぶ子を育てる  
～異質性が行き交うシティズンシップ教育～

- 主催 お茶の水女子大学附属小学校  
NPO 法人お茶の水児童教育研究会
- 後援 お茶の水女子大学 学校教育研究部
- 期日 2012年2月23日（木）・24日（金）
- 会場 お茶の水女子大学附属小学校
- 日程と内容

受付	学習指導 I	学習指導 II	話し合い 学習指導 II の	昼食	分科会	講演
9:00	10:00	11:00	13:00	14:40	16:00	

- ・全学習分野・食育の学習公開と授業後の話し合い  
（ことば / 市民 / 算数 / 自然 / 音楽 / アート / からだ / 生活文化）
- ・分科会 1日目 学年別部会 2日目 学習分野別部会
- 講演  
1日目 秋田 喜代美 先生（東京大学大学院教授）  
2日目 平田 オリザ 先生（劇作家・演出家 /  
大阪大学コミュニケーションデザインセンター教授）
- 問い合わせ  
お茶の水女子大学附属小学校  
TEL 03-5978-5875 FAX 03-5978-5872
- 申し込み  
当日または  
HP (<http://www.fs.ocha.ac.jp/>) にて 10月下旬より

“お茶大インフォメーション・プラザ” がオープン!

お茶の水女子大学では、附属学校を含めた大学全体の広報を推進するため、大学正  
門横に「お茶大インフォメーション・プラザ」を設置し、2011年7月6日（水）にオー  
プンしました。

プラザ内には、大学紹介映像の放映、各種パンフレット・大学グッズなどが展示され、  
保育施設いずみナーサリー、附属学校園から大学院まで大学全体の資料をご覧いただけ  
るようになっています。

前期授業最終日の7月13日（水）には、オープン記念イベントとして、プラザ前広場  
で東日本大震災の被災地を応援するチャリティーセールが開催され、400人以上の来場  
者がありました。学生団体 “がん茶”（がんばれ、東日本!がんばれ、お茶大!）と学生サー  
クル “Ochas” が協力して、お茶大グッズや Ochas が考案した「福島県産玉ねぎの野菜  
スイーツ」などを販売し、売り上げの一部は義援金として寄付しました。

【インフォメーションルームの開室時間】 8時30分～17時00分（土日も開室）



▲ オープン記念イベントの様子



▲ プラザ内の様子

講演会

# 「放射線と子ども ～日常の疑問からちょっと深い話まで～」



講師：稲葉 俊哉 教授（広島大学原爆放射線医科学研究所 副所長）

日時：2011年6月10日（金）9：30～11：00

会場：お茶の水女子大学 徽音堂

〈稲葉俊哉氏 プロフィール〉

医学博士。東京大学医学部卒。埼玉県立小児医療センター、St. Jude Children's Research Hospital、自治医科大学講師などを経て、2001年広島大学原爆放射線医学研究所教授。2009年から現職。専門は血液学（白血病発症メカニズム、小児血液学）、分子生物学、放射線生物学。

東日本大震災によって起こった東京電力福島第一原子力発電所の事故は、放出される放射線が人体、特に子どもたちにどのような影響を及ぼすのか心配される事態となりました。事故後の説明で使われた用語や単位がよく分からないなど、放射線というものに対する私たちの認識が薄かったことも不安や混乱に拍車をかける一因となったようです。

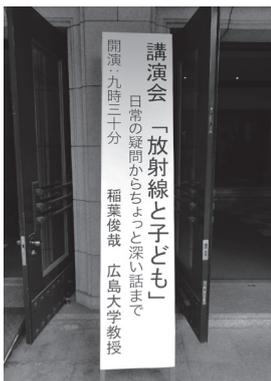
そうした中、お茶の水女子大学附属学校部が中心となって、附属学校園の保護者を対象に、放射線の影響についての正しい知識と理解を深めることを目的とした講演会を開催しました。当日は300名近くの保護者が参加し、基本的な用語の解説から福島における健康被害の予測や規制値の根拠といった少し深い内容にまでわたる稲葉先生のお話に、真剣な表情で耳を傾けていました。

放射線の怖さと利点をきちんと教える「放射線教育」の大切さが言われている折でもありますので、稲葉先生のお話の一部をご紹介します。

## 放射線が身体を損なうメカニズム

外から放射線を浴びることを外部被ばくといい、放射性物質が入っている空気や水や食べ物を吸い込んだり食べたりすることにより、体内から放射線を浴びることを内部被ばくといいます。

放射線が健康を損なうメカニズムは2つありますが、全く別物ですので、しっかりと区別して考えてください。



1. 原爆の爆心地などのように、とんでもなく多い放射線を浴びることによって、ただちに出る害（時間、日、週単位）：軽い場合は脱毛、局所的にあたるとやけど、ケロイド。量が増えてくると内臓にダメージ（脳・血液・腸管）を与え生命にかかわる。
2. 比較的少ない放射線が原因で起こるがん（年単位）：外部被ばくの場合には乳がん・白血病・肺がんなど、内部被ばくの場合には今のところ甲状腺がんが最も多い。

つまり放射線被ばくについて憂慮すべき事態は、「とんでもない量の放射線を浴びてしまい数ヶ月以内に死に至ること」と「数年から数十年後に出てくるがん」の2つです。

がんについては、現在、日本人の2人に1人ががんになりますので、放射線を浴びた人ががんになった場合、それは放射線が原因なのか、そうではないのかということが非常に重要な問題になってきます。放射線が原因のがんとそうではないがんが区別できればよいのですが、研究を重ねれば重ねるほど、両者は同じであるという結論に至っております。

## 放射線被ばくの影響は遺伝しない

ここまでお話をすると大抵、「放射線被ばくの影響は子どもたちに伝わらないのですか？」という質問が出ます。

広島・長崎では、何十万という被爆者の方々が、生きるか死ぬかの危機を乗り越えて子どもを持たれました。この「被爆2世」の赤ちゃんについて大がかりな調査を行い、放射線を浴びていないグループと比較した結果、異常の増加は見られませんでした。なぜかということについては諸説ありますが、放射

線の影響が遺伝しないということは事実です。

ただし、妊娠中はまったく別です。既に别人格の子どもがお腹にいるわけで、その子が放射線を浴びるのは大変危ないことですから注意してください。

## 放射性物質の人体への影響

放射線を出す物質を「放射性物質」といい、セシウムやヨウ素以外にも沢山の種類があります。しかしチェルノブイリを見る限り、ヨウ素以外の物質が悪さをしているという証拠はありません。

たとえばキセノン 133 は相当量放出されているのですが、他の物質とくっつきにくい性質を持つ希ガスで、吸い込んだとしても吐く息と一緒に排出され体に取り込まれないので、あまり問題になりません。

セシウム 137 が、がんを起こすか否かはよく分かっていませんが、セシウムは体内に比較的均等に分布するため1ヶ所1ヶ所ではそんなに強く体を傷めません。半減期が30年というのは有名ですが、体内に取り込まれたセシウムについては主に尿中に排出されるので、数ヶ月たつとかなり減ると考えてよいと思います。

一方、ヨウ素 131 は甲状腺に集まるという性質を持っています。集まったヨウ素が放射線を出し、甲状腺が被ばくして甲状腺がんになるということが起こるのです。

## 広島・長崎、チェルノブイリ、そして福島

それでは、広島・長崎とチェルノブイリの結果(図1)を踏まえて、福島原発事故がもたらす健康被害について考えてみ

ます。

まず外部被ばくです。福島は臨界爆発ではなく水素爆発で規模が小さかったこともあり、数ヶ月以内に死亡するような人は現状では0人です。白血病などについては、早すぎてまだお話しするようなことではないのですが、チェルノブイリで25年たつて増加していないという事態を普通に解釈すれば、福島で今後増加するということは考えにくいのではないかと思います。

次に内部被ばくですが、チェルノブイリでは子どもを中心に甲状腺がんが数千人増加しました。これが福島にも当てはまるかどうか、大変気になるところです。一番危ないのは子どもの甲状腺であるということで、原発周辺の子どもの甲状腺の被ばく線量を測定したところ、全員が被ばくしていませんでした。

その理由としては、そもそもチェルノブイリに比べてヨウ素の放出量が少なかったこと、避難や屋内退避等の対応が早かったこと、普段からわかめ、海苔などの海草を摂っていたためにヨード不足にならず甲状腺が非常に安定した状態にあることなどが考えられます。目下のところ福島で甲状腺がんの子どもが数千人単位で増えるということはあまり想像できません。

## 規制値の根拠とは

このところ「規制値」という言葉も連日耳にしますが、この値は何もないところから突然出てくるわけではありません。やはり根拠となる科学的事実があります。

1回で、100ミリシーベルトを越える放射線を浴びると、がんになる可能性がわずかに増える(0.5～数%)。

〈図1：広島・長崎、チェルノブイリの健康被害〉

	広島・長崎 (1945年)	チェルノブイリ (1986年)
爆発の種類	地上 600 m の空中核爆発 ↓ ・大量の放射線が降り注ぐ。 ・放射性物質の大半は上空に抜けた。	地上核爆発 ↓ ・大量の放射線が放出 ・大量の放射性物質が風に運ばれフォールアウト
外部被ばく	数十万人 ・数ヶ月以内の死亡：20万人 ・がんになった人が数千から数万人増加	原発職員・消防士ら数千人 ・数ヶ月以内の死亡：約30人 ・その後の白血病やがんの増加なし。
内部被ばく	不明 (外部被ばくと比較して、意味合いは小さい)	風下に暮らす何十万人もの人々 ・数ヶ月以内の死亡：0名 ・小児を中心とした甲状腺がんが数千人増加 ・甲状腺がん以外のがんについては少なくとも現段階では増加していない。

原爆の被爆者 12 万人の方々の献身的なご協力のもとに、広島、長崎の放射線影響研究所が、50 年以上にわたって調査・追跡をした結果、この事実が明らかになりました。これ以外のデータはありませんので、これが私たちの唯一の出発点です。

同じ年齢の 100 ミリシーベルトの放射線を浴びた原爆被爆者のグループと被ばくしていないグループを作り、何十年にもわたって比較したところ、100 ミリシーベルトを浴びたグループのほうが 0.5 ～ 数%、発がん率が高かったという結果になりました。100 ミリシーベルトを越えるとその数字がもっと増え、100 ミリシーベルト以下では増えたかどうか分かりません。

この数値を他の有害物質などの発ガン増加率（図 2）と比較して、1 回 100 ミリシーベルトの放射線の影響をどのように考えるかというのは、皆さんの方で判断いただくことになると思います。

〈図 2：発がん増加率〉

タバコ（肺がん）	300%
塩分の過剰摂取（胃がん）	200%
肥満（全部のがん）	20%
痩せすぎ（全部のがん）	30%
野菜不足（全部のがん）	6%

## 放射線の害は蓄積しない

では、「1 回で」100 ミリシーベルトではなく、「3 日かけて」100 ミリシーベルトになった場合、「1 年もしくはそれ以上の年月をかけて」100 ミリシーベルトになった場合はどうでしょうか。この答えは非常にはっきりしており、「1 回」というのが一番がんになる確率が高く、時間をかければかける程その確率は激減していきます。

水俣病の水銀、イタイイタイ病のカドミウムなどは、蓄積毒性といって、1 回や 2 回ではどうということはないのですが、汚染された魚を毎日食べ続けることによって体の中にたまって、悪影響を及ぼします。

しかし、放射線の場合は違います。比較的微量の放射線であれば、細胞の方に放射線の悪影響をキャンセルするシステムが備わっているのです。地球上に生命が誕生した時から放射線は生物の敵でした。当時は大気圏がしっかりできていなかった

こともあり、今とは比較にならない量の放射線が降り注いでいたのです。そのため生物は放射線の害をすぐにキャンセルするシステムを作り上げたのです。つまり放射線の場合には、重金属のような蓄積毒性ということは当てはまりません。

## 規制値は余裕をもって定められている

もう 1 つ申し上げたいのは、規制値というのは非常に大きな余裕を持って定められているということです。

まず量ですが、どんな基準でも 100 ミリシーベルトというような余裕のない数字ではなく、5 分の 1 ぐらい、あるいはそれ以下にしています。また時間についても、本当は「1 回で」100 ミリシーベルトなのですが、規制値では「半年で」「1 年で」となっています。さらに食べ物の場合には、たとえば水道水を 5 ℓ 飲むとか、ほうれん草を 1kg 食べるとか、しかもそれを 1 年間続けるというような非現実的な摂取量が想定されています。

つまりちょっと規制値を超えたものを食べてしまったぐらいでどうにかになってしまうというようなところで線をひいてはいないと、ご理解いただければと思います。

## 大切なのは正當に怖がること

～ Trust me. I'm a doctor.

原爆の被爆国ということもあり、日本には放射線の研究をしている専門家が数百人います。数もレベルも決してアメリカやヨーロッパにひけをとるものではありません。放射線医学研究所（千葉）、放射線影響研究所（広島、長崎）、長崎大学原爆後障害医療研究施設、広島大学原爆放射線医科学研究所の 4 ヶ所を主な拠点として、研究と教育、国際基準作り、政府と福島県への助言と支援等を行なっています。今日お話したことはおおむね、その数百人の専門家の見解です。

寺田寅彦氏（1878-1935 物理学者、随筆家、東大教授）の「ものをこわがらなさ過ぎたり、こわがり過ぎたりするのはやさしいが、正當にこわがることはなかなかむづかしい」という言葉は、まさに今日の状態ではないかと思います。私たち専門家の声に耳を傾け、冷静にお考えいただきたいと思います。

※【放射線と子ども】第 1 章 放射線の正しい知識

(<http://www.blog.crn.or.jp/lab/06/08.html>) も是非ご覧下さい。

協力：お茶の水女子大学 学校教育研究部



## 講師派遣事業のご報告

## 桜蔭会静岡支部講演会「此岸のはての紫の上」

【講師】田中 恭子 先生（1973 年お茶の水女子大学大学院 修士課程修了、お茶の水女子大学、中京大学非常勤講師などを経て、現在 NHK 文化センター講師）

【日時】2011 年 6 月 26 日（日） 13:30～15:30

【場所】静岡グランドホテル中島屋 2 階 ローズルーム



桜蔭会静岡支部総会時に同時開催という形で、田中恭子先生に 1 時間の『源氏物語』の講演をお願いしました。同窓会員 30 名に、『源氏物語』の勉強会をなさっている外部の方 10 名が加わりました。

田中先生は、『源氏物語』が、主人公光源氏の単なる恋物語では決してなく、栄達を遂げて臣下として登りつめる明るい前半から一転、主人公たちの深い失意を描く後半に入り、源氏の孫世代の宇治十帖にも及ぶ世界的な名作であることから説き起こされました。

源氏の理想の女人として、源氏自身が最高の教師となって育てた紫の上の足跡を、本文に添ってポイントを押さえて解説いただきました。本文を御紹介いただいた「桐壺」「若紫」「葵」「初音」「若菜・上」「御法」の、先生の朗読は本当に格調高く、心に迫りました。

「源氏の女君（おんなぎみ）」から「二条院の上」様へと、源

氏の愛と揺るぎない信頼を得た地位を表す呼び名に変化していく紫の上が、女三宮の降嫁後は、「対の上」と格下げした呼称になることを本文に即して教えていただきました。女三宮の降嫁を朱雀院から要請された時、女三宮も憧れの藤壺のゆかりであることに一瞬惹かれたところに源氏の間があったとの御指摘も大そう興味深かったです。平穩を装っても、紫の上は、源氏が“つひのよるべ”となり得ないつらさ、悲しさから、病を得て帰らぬ人となっていきますが、養女とした中宮には“よるべなき”女房の処遇を頼みます。加えて、孫宮に託した「二条院の紅梅と桜を心に留めよ」という遺言にも盛られた優しさ、深さは、私達に多くの示唆を与えてくれました。

紫の上にスポットを当てながら、此岸のはての姿を描き切った『源氏物語』の奥深い魅力を十分に伝えていただき、もっとお聞きしたい講演でした。

（桜蔭会静岡支部 酒井 敦代 氏より）

## 男女共同参画促進事業のご報告

今年度も大好評！  
「文京区 女性のためのパソコン教室」

【日時】2011 年 6 月 21 日・22 日・28 日・29 日 13:30～16:30

【会場】文京区教育センター（文京区春日 1-9-21）

【講師】西村 文恵 氏（株式会社ハッピーコム）

【共催】文京区男女協働・子ども家庭支援センター担当課  
お茶の水学術事業会

【参加】19 名

「男女共同参画週間」（6 月 23 日～29 日）に合わせて開講されたセミナーということで、初日には講習に先立って、文京区男女協働・子ども家庭支援センター担当課の小池陽子課長より、日本の現状と平成 23 年度～27 年度に実施される「文京区男女平等参画推進計画」についてのお話がありました。

4 日間の講習終了後に行なったアンケートでは、80%以上の受講生が、講習の内容・レベルは「ちょうど良い」、講師の説



## ◆主な講習内容

- |   |                              |
|---|------------------------------|
| 1 | 【Word】名刺作成                   |
| 2 | 【Word】覚えておくと便利な文書作成機能：案内状の作成 |
| 3 | 【Excel】実務で役立つ表計算機能：請求書の作成    |
| 4 | 【Excel】名簿の作成 【応用】差込み印刷       |

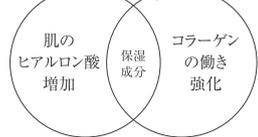
明は「分かりやすい」と答えるなど今年度も好評でした。「今回のセミナーをどのように役立てたいですか」という質問には「現在の仕事」「再就職」「PTA 活動」「地域活動」「ボランティア活動」といった回答が寄せられ、覚えたパソコン技術を生かして積極的に社会参加をしていこうという意識が強く感じられました。

ライフサイエンスから生まれたスキンケア

細胞生物学の最先端研究の中で室伏教授が発見した新成分cPA（シービーイー）は、あなたの体内のヒアルロン酸を増やして、本来あるべき良好な状態に導きます。雅GraceはcPAを配合した世界初のスキンケアです。

室伏きみ子（お茶の水女子大 教授）監修

新成分  
**cPA**  
配合



売り上げの一部は、  
大学へ寄附されます



雅Grace  
グレイス化粧水 150mL

雅Graceグレイス乳液 100mL  
雅Graceグレイス美容液 30mL

※写真は、グレイス化粧水 150mLです。

美しく見える肌ではなく、ほんとうに美しい肌へ。  
**雅 Grace —グレイス—、誕生。**

販売元: SANSHO株式会社 TEL 03-5203-0716 WEB <http://c-pa.jp/>

なお、お茶の水学術事業会で、特別価格でお取り扱いをしております。詳しくは、本会事務局まで お問い合わせください。

E-mail : [info@npo-ochanomizu.org](mailto:info@npo-ochanomizu.org) TEL & FAX : 03-5976-1478

お茶大ゴルフ 好評発売中!!



- ・ばにら・ちょこ・いちご各4枚入 600円(税込)
- ・地方発送も承っております(送料はお客様負担となります)

お茶の水ブックレット・お茶大ゴルフのご注文はお茶の水学術事業会事務局まで  
E-mail : [info@npo-ochanomizu.org](mailto:info@npo-ochanomizu.org) TEL & FAX : 03-5976-1478

お茶大絵はがき・クリアファイル好評発売中!

◆絵はがき (1枚 80円)

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪

5枚組 400円

大学正門 大学本館 中庭にて 大学本館 2階廊下

大学本館 階段 大学正門からの 銀杏並木と本館 限定品

◆クリアファイル (1枚 120円)

10枚以上まとめてご購入の場合は  
割引があります。



ご購入を希望する絵はがき・クリアファイルの番号と必要枚数をご連絡ください。(送料 80円~)

お茶の水学術事業会のHPからもご注文いただけます

撮影: 大塚常樹氏  
(お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科教授)

お問い合わせは お茶の水学術事業会へ

編集後記

震災の体験談、原発事故による放射線の影響についての講演、そして震災で保護者を亡くした子どもたちを支援する活動のご紹介「ellipse」第26号は東日本大震災の特集になりました。巨大地震の発生から半年以上が過ぎ、その爪痕の大きさ、深さをあらためて感じています。プレキャンの植樹祭ですなるの木に託した願いをのせて、「夢のつばさ♥プロジェクト」が大きくはばたきますように。

広告募集

このページに広告を掲載しませんか? 次号は2012年2月に2500部発行予定です。会員の皆様はじめ全国の公共機関などに配布しています。広告料金は、1回につき20,000円。詳しくは下記までお問い合わせください。

事務局

**OPEN 月~金 10:00 ~ 16:00**  
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 理学部 3号館 204  
TEL&FAX 03-5976-1478 E-mail : [info@npo-ochanomizu.org](mailto:info@npo-ochanomizu.org)  
<http://www.npo-ochanomizu.org>

※会員の方は、お問合せの際、会員番号をお知らせください。会員番号は封筒の宛名ラベルに印字してあります。



◆事務局所在地  
東京都文京区大塚2-1-1  
お茶の水女子大学  
理学部3号館204

◆交通機関

地下鉄 丸の内線  
茗荷谷駅から徒歩7分  
地下鉄 有楽町線  
護国寺駅から徒歩8分

都バス  
大塚2丁目バス停すぐ